第17回対照言語行動学研究会　口頭発表 概要

2018. 9.29　於 青山学院大学

|  |  |
| --- | --- |
| タイトル | 日中の母語場面と日本語接触場面のロールプレイ会話にみる感謝の談話展開 |
| 著者名（所属） | 市原明日香（お茶の水女子大学大学院） |
| 連絡先Eﾒｰﾙ | asukaichihara@gmail.com |
| 論文内容　　「感謝」の発話行為について、日本語は中国語と比較すると多様な場面で感謝表現を使用することや、中国語では家族や親しい友人には「感謝」の発話行為を行わないことがいわれている（施2007，井上2016，市原2018）が、これまで会話データからは明らかにされておらず、また、日本語学習者がどのように日本語で「感謝」の発話を遂行するのかについても不明である。そこで、本研究は、中国語母語話者（CN）と日本語母語話者（JN）、及びJNと中国語を母語とする日本語学習者（CNL）の接触場面の「感謝」の発話行為について、談話全体から各々の特徴を明らかにすることを目的とし、研究課題（RQ）を以下とした。（1）親しい関係の相手からの「恩恵」に対して「感謝」の有無に日中で差異があるか。（2）親しい関係の相手との「感謝」の談話展開は日中で異同があるか。（3）中国語を母語とする日本語学習者（CNL）は日本語接触場面においてどのようにふるまうのか（負の転移あるいは言語調整が観察されるのか）。　恩恵の内容と文脈を統制するためにロールプレイにて会話データを収集した。調査協力者は大学に所属する学生で、CNの25組、JNの25組、接触場面のJNとCNLの22組である。現実でも友人関係である二人をペアとしてロールプレイを行い、恩恵の内容は比較的程度の重い、「人の紹介」（自分が就職を希望する会社の先輩を相手から紹介してもらった）という文脈を設定した。　結果をみると、友人からの「人の紹介」の恩恵に対して、JNは25人全員（100%）が感謝の発話行為を遂行したのに対し、CNは18人（72％）が遂行し、28％にあたる7人には感謝の発話行為がみられなかった。この結果をカイ二乗検定でみたところ、*χ*2 = 8.14, *p* < .01 となり、JNのほうが有意に多かった（RQ1）。　次に、談話展開をみると、JNは本題の前に会話のOpener（Coulmas 1981）ないし「接触開始」の機能（中道・土井1994）で感謝表現が使用されていること、CNは恩恵の内容を報告し、実質的な話題の一つとして互いに情報をやりとりすることに特徴がみられた。これらの特徴をTannen（1986）の「会話のスタイル」を援用して捉えると、感謝の発話行為においてJNはラポート・トーク（rapport talk）であるのに対し、CNはレポート・トーク（report talk）と言えるのではないだろうか。JNのみにみられた談話展開は、「友人」から「感謝を表明する役割」へのフッティング（Goffman 1981）の変化が、カジュアルな文体から敬体へのスピーチレベルのシフトによって提示され相互にやりとりされる点である。一方、CNのみにみられた談話展開は、受けた恩恵の結果や内容の詳細を伝えていながらも感謝の発話行為をセットで行わない例や、利益に結びつかなかった事などロールカードの設定にはない否定的な要素を相手に告げる例が挙げられる（RQ2）。　接触場面では、JNは11人全員、CNLは10人が感謝の発話行為を行い、統計的有意差はみられなかった。接触場面においてCNLがJNの感謝の特徴を捉えて日本語を調整している発話例がみられた。その一方で、「報告」のみ行い感謝の発話行為を行わない、中国語の影響とみられる談話展開の事例は、接触場面で誤解を引き起こす可能性が指摘される（RQ3）。参考文献・Coulmas, F. (1981) Poison to your soul: Thanks and Apologies contrastively viewed. *Conversational Routine,* The Hague: Mouton.・Goffman, E. (1981) *Forms of talk,* Philadelphia: University of Pennsylvania Press.・Tannen, D. (1986) *That’s not what I meant: How Conversational Style Makes or Breaks Relationships,* New York: Ballantine Books.・井上優（2016）「招待講演 日本語から見た中国語の文法とコミュニケーション」『中国語教育』 14, pp.1-22.・市原明日香（2018）「日本語学習者は「感謝」の語用論上の差異をどのように捉えているか―「ありがとう」に対する戸惑いと困難―」『待遇コミュニケーション研究』15, pp.1-17.・施晖（2007）｢再感謝表現についての日中比較｣『中國學研究論集』19, pp.108-100.・中道真木男・土井真美（1994）「日本語教育における感謝の扱い」『日本語学』13(08), pp.47-54. |